

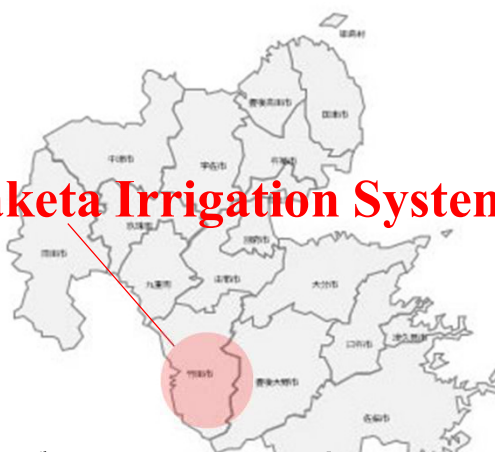
世界かんがい施設遺産

たけたのかんがいようすいぐん

竹田の かんがい用水群

[大分県・竹田市]

Taketa Irrigation System



でこぼこ・かちかちで生きるイロイロ～

- ・でこぼこ(農地の多くは中山間地で急傾斜地にあり、条件不利地を指す)
- ・かちかち(阿蘇山の火砕流堆積物で構成された火山灰土壌を指す)
- ・イロイロ(井路を指す)

施設は大分県竹田市に位置し、大野川(おおのがわ)(流域面積1,465 km²、長さ107 km)上流の中山間部の水田をかんがいの「大小21本の用水路群」である。

これらの用水路は、1663年から1924年にかけて築造され、現在も2,562 haの水田に用水を供給しており竹田では、豊富な水資源を活かして、古くから稲作が行われてきた。

竹田は中山間地であって、起伏に富む地形のため、かんがいには隧道や水路橋など高度な水利技術が求められた。現存する竹田のかんがい用水群は、中山間地における水田開発の苦労と農業水利の発展の歴史を物語る貴重な施設と言えます。

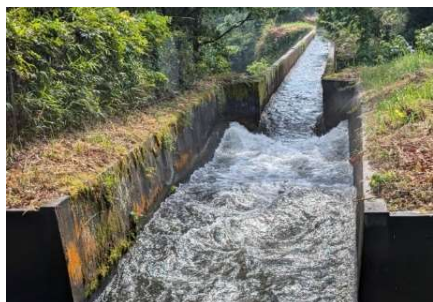


城原井路 左側は 城原神社横を流れる「三面石造り水路」。右側は「落門の滝四季真景図」(大正13年)

■城原(さばる)井路(1663年築造)

幹線水路7.7 km。多数の支線水路とあわせた総延長が約130 kmであり、広域に点在する水田へ用水を供給するため、約1,300の分水管所がある。

幹線用水路の下流部には、かつて高台から余水を放出して台地底部の水田に用水を供給する仕組み(「落門(らくもん)の滝」(国・登録記念物))があった。

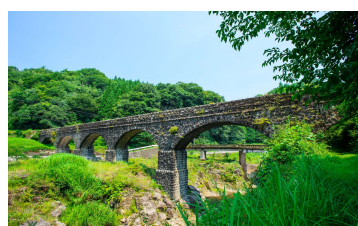


富士緒井路「四俣水路」

左側は 現在の水路の状況
右側は 築造当時(大正3年撮影)



■富士緒(ふじお)井路(1914年築造) 幹線水路は14.2 kmで、隧道区間がそれぞれ7.1 kmと11.7 kmにもなる。



明正井路「第一拱石橋」(土木遺産)

左側は 現在の状況、
右側は 第一号拱石橋工事中(大正8年5月撮影)



■明正(めいせい)井路(1924年築造)

総延長約175 kmに 17基の水路橋がある。特に、6連アーチ橋は国内最大規模の石造水路橋である。



左側は電動削岩機を使用した岩堀削(当時)水路工事では日本で初めての施工。

■荻柏原(おがかしわばる)井路(1924年築造)

山地や丘陵をくり抜く水路トンネルが大小200、総延長約33kmを建設。